

## シグマ委員会核データ専門部会核データ評価 W. G.

### 重核 sub W. G., 実験法評価 sub W. G. 関係者会合議事録

日 時 昭和60年2月7日(木) 13:30～17:00  
場 所 日本原子力研究所本部第2会議室  
出席者 神田(九大), 川合, 村田(NAIG), 松延(住友原工),  
菊池, 中川(原研)

#### 配布資料

- HN-84-15 同時評価用実験データのリスト
- HN-84-16 同時評価の結果(JENDL-2との比)
- HN-84-17 同時評価の結果(実験データ, JENDL-2との比較)
- HN-84-18  $^{237}\text{Np}$ 核分裂断面積に関する資料
- HN-84-19 学会予稿「重核の核分裂, 放射捕獲断面積とその共分散の同時評価」

#### 議 事

1. 前回議事録の確認
2. 同時評価結果の検討

今回は前回会合の議論にもとづいて次の4種類の計算を行った。

- (1) 全実験データの covariance を考慮した計算。
- (2) 全実験データの covriance を無視した計算。
- (3)  $^{241}\text{Pu}$ を除き, 全実験データの covariance を考慮した計算。
- (4) 新たに追加された実験データを考慮した(1)と同様の計算。

配布資料 HN-84-16はこれら4つの計算結果と JENDL-2との比を求めてグラフ化したもの, HN-84-17は(4)の結果と実験データおよびJENDL-2を重ねてグラフ化したものである。配布資料を検討し, 各反応毎の問題点を洗い出した。各反応に共通して, 計算のエネルギーメッシュが粗すぎる事が指摘された。しかし, エネルギー領域によっては逆に細かすぎて不自然な形がでている所もある。

九大では2次のスプライン関数を用いることも検討している。

### 3. 今後の方針

- (1) 九大で2次スプラインまたはエネルギー点を増した計算をする。このとき $^{238}\text{U}(n, \gamma)$ と $^{197}\text{Au}(n, \gamma)$ でまだ入力していない実験データを、できれば全部入れて計算する。結果は2月16日までに原研に発送し、原研で作図する。
- (2) この図を2月中に各担当者に送る。
- (3) 各担当者は、図を見て、「こういう評価値にしたい」という情報を3月15日までに九大に送る。
- (4) 九大での再計算の結果は原研で作図する。

### 4. $^{237}\text{Np}$ 核分裂断面積

JENDL-2 と ENDF/B-V の  $^{237}\text{Np}$  核分裂断面積データの違いについて、配布資料 HN-84-18 を用いて、菊池委員より説明があった。

### 5. 次回

4月23日(火) 原研本部で

出席者は関係者のみとし、Santa Fe 会議の論文の検討を行う。論文の原稿は神田委員が作成する。

5月中旬

全体会合を開く。JENDL-2 重核データのステータスレビューを行う。